

# [シラス]

## 1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成11年の5,450トンを一ピークに減少傾向を示し、平成14、15年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後平成16年は3,507トンと比較的好調に推移しましたが、平成17年以降減少傾向を示し、平成19年は2,470トンとなりました。

志布志湾海域では平成12年の1,407トンを一ピークに減少傾向を示し、平成14年は396トンまで減少しましたが、平成15年以降は増加傾向を示し、平成19年は2,374トンと好調に推移しました。

## 2. 平成20年7～8月期の漁況の経過

今期の西薩海域ではカタクチシラス主体に361.6トンの水揚げで、前年の469%、平年の163%と前年・平年を上回りました。志布志湾海域ではカタクチシラス主体に120.9トンの水揚げで、前年の206%、平年の75%と前年を上回ったものの平年を下回りました。

## 3. 平成20年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域では前年・平年を上回り、志布志湾海域では前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

西薩海域・志布志湾海域とも秋漁と夏期の降水量との間に強い正の相関が見られます。今年の夏期の西薩地区での降水量は前年・平年を上回り、また北薩海域での産卵親魚となるカタクチイワシの漁獲量が好調のため、西薩海域では来遊水準は高いと思われます。今年の夏期の志布志湾周辺地区の降水量は前年・平年を下回り、また志布志湾周辺海域でのカタクチイワシの漁獲量が8月以降低調のため、志布志湾海域では来遊水準は低いと思われます。

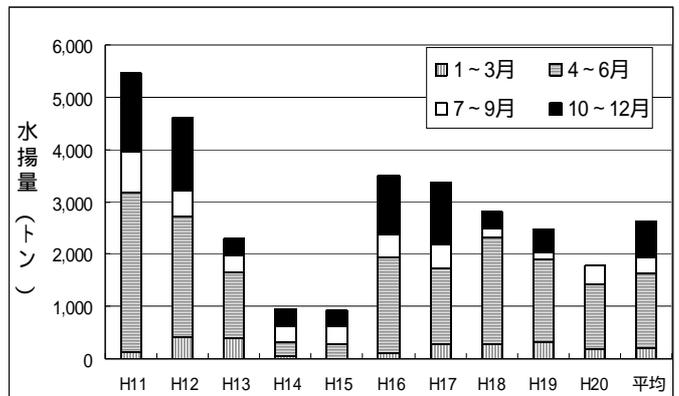
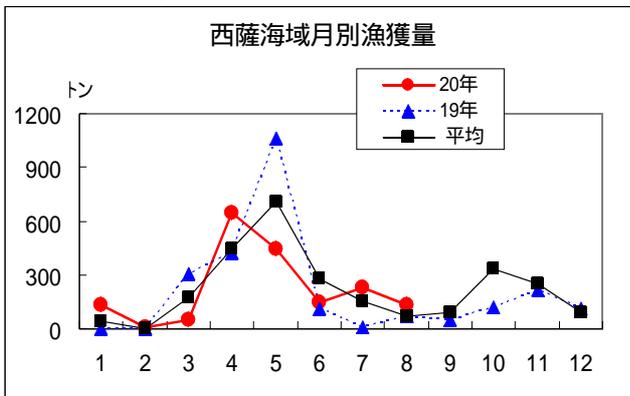


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

平成20年8月末までの水揚げ量を使用。

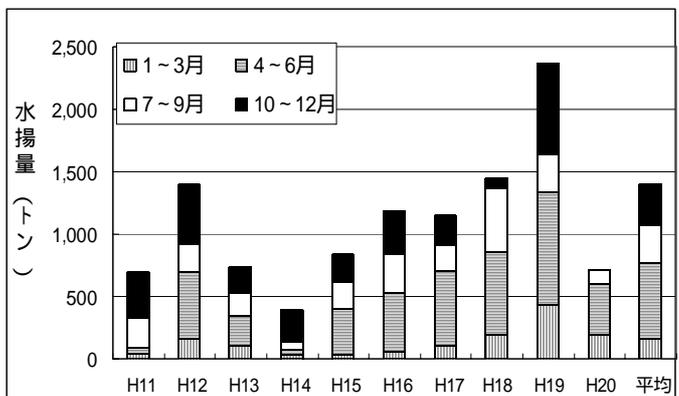
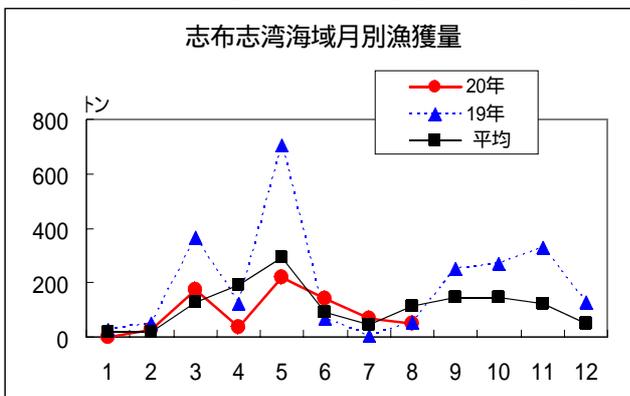


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平成20年8月末までの水揚げ量を使用。